

●明治大学●

## 水曜会会報

第2号

1999年6月発行  
明治大学水曜会  
044-934-7381

## 会長挨拶

水曜会会長 富田隆造



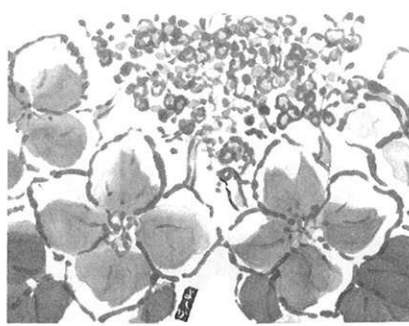
水曜会会長の任務を仰せ  
つかりましてから、あつと  
いう間に2年が経過しまし  
た。水曜会会員各位におか  
れましては、ますますご健  
勝、ご活躍のこととお慶び  
申し上げます。ここで会運  
営を振り返り、ご報告と共  
に一言ご挨拶申し上げます。

水曜会会員の中には建設  
業関連の方も多数いらつし  
やいます。不況の影響も  
大きく、早く良い方向に向  
かう事を念じてやみません。  
会運営にあたっては、会  
則改訂、研究会、親睦会、  
会報発行の4つの運営実行  
委員会を設け、水曜会の更  
なる発展を目指し活動して  
きました。会則改定委員会  
においては原案も固まって  
最後の詰め段階となつて  
おります。諸先輩の方々や  
顧問の先生方に最終的にご  
意見を賜り、総会にて改定  
案の承認を得たいと思つて  
おります。

今日、変革の時代とも言  
われている中、政治、経済  
の不透明な社会が続く、不  
況の波もいまだにどん底か  
ら上がつてこない状況です。  
統一地方選挙も終わり、こ  
れからは多少なりとも明る  
い兆しが見えてくることを  
期待したいと願っているこ  
ろです。

会の運営の若返りを計る  
委員会として活動して  
いたしております。研究  
研究会においては昨年10  
月にオープンした駿河台リ  
バティータワーの見学会を  
実行致しました。また、6  
月には講演会や見学会等も  
計画しており、多数のご参  
加を期待しております。交  
流行事としての親睦会では、  
親睦ゴルフ会を催したとこ  
ろ、多数の方々のご参加が  
得られ、大変楽しい会とな  
りました。今後とも  
水曜会の更なる発展を目指  
しながら実行して行くよう  
努力して行きたいと思つて  
おります。会の運営資金は、  
会員の皆様より会費を徴収  
し、活用させていただいて

いことで、担当委員の努力  
の賜物であります。会報は  
水曜会会員の皆様の情報交  
換の場でもありますので、  
大いに活用していただい  
れば幸いです。今後の進め  
方などでアイデアやご意見  
ご感想等ありましたらどし  
どしお寄せいただきたくお  
願い申し上げます。



会の運営としては、以上  
の活動を2、3ヶ月に1度、  
理事会を開催しながら進め  
てまいりました。今後とも  
水曜会の更なる発展を目指  
しながら実行して行くよう  
努力して行きたいと思つて  
おります。会の運営資金は、  
会員の皆様より会費を徴収  
し、活用させていただいて

おりますが、皆様のご協力  
無しでは活かせません。  
会費納入の方、何卒よろし  
くお願い申し上げます。  
現在800余名の会員が  
各方面で活躍しております  
が、何か今一つ我々水曜会  
会員には活力が足りなく思  
われます。大学や先生方を  
中心に協力し合い、学会や  
関係業界等多方面での活  
躍を期待したいものです。  
我々の母校明治大学も1  
20周年を迎え、昔懐かし  
い記念館も取り壊され、新  
時代にふさわしい現代的な  
高層の校舎に変貌致しまし  
た。建設にあたっては紆余  
曲折、色々あったことも聞  
こえて来ましたが、大変す  
ばらしい校舎「リバティー  
タワー」が完成しておりま  
す。  
まだ2期工事が残ってい  
るようで、各方面へご寄付  
を仰いでいると聞き及んで  
おります。そこで私たち水  
曜会としても何らかの形で  
協力して行きたいと考え、

理事会で協議した結果、会  
員の方々より少しづつでも  
ご寄付を仰ぎ協力して行こ  
うということになりました。  
ご支援ご協力のほどどうぞ  
宜しくお願いいたします。  
メモリアルプレートに水曜  
会の名を刻んで、永遠に残  
るようにしたいと思つてお  
ります。目標額は30万円程  
度と考えておりますので、  
不況の折、何かと大変なこ  
とと思いますが、よろしく  
お願い申し上げます。なお、  
メモリアルプレートに記入  
できるのは2000年4月  
までとのことです。  
今後とも顧問の先生、並び  
に諸先輩の方々のご指導を  
得ながら会員相互の情報交  
換、交流を計って有意義な  
水曜会が運営されるよう、  
役員理事の方々と努力して  
行きたいと思っております。  
より一層の会員皆様様の  
絶大なるご支援とご協力、  
ご指導を賜りますようお願い  
申し上げます。

挿絵——竹田 佳香  
一九九六年加治屋研卒 作

## 1999年度 事業計画

理事 平川 清

平成9年度より4つの部会のもとに運営実行委員会を設け、その活動をしてまいりましたが、会則改定委員会は6月24日の総会において会則改定の承認を受けることにより終了となります。今年度は、以下の3つの部会を中心に活動いたしますので、会員皆様の各委員会行事への振るっての参加をお願いすると共に御協力をお願いいたします。

なお、今年度の理事会につきましては、5回程度(2～3ヶ月に1度)開催の予定です。

◎運営部会：会員相互の交流と親睦を計る。

\*11月にゴルフコンペを予定

◎研究部会：講演会、見学会などを企画。

\*総会で高地先生の講演会を予定

\*9月には、技術見学会を予定

◎広報部会：年1回、会報を発行し(6月)、会員の情報交換を計る。

\*総会案内に添付し配布する

### 1998年度 会計報告

1998年4月1日～1999年3月31日

[収入の部]

(1)前年度繰越金 915,884円  
(2)97年度名簿作成委員会への仮払い1,500,000円  
(3)97年度名簿代金(307名) 921,000円  
(4)会費(97年度分) 23,000円  
10名×2,000円 1名×3,000円

(5)銀行利息 488円  
合 計 3,360,372円

[支出の部]

(1)97年度名簿作成経費 1,044,964円  
(2)97年度会報作成経費 222,785円  
(3)98年度見学会案内作成経費 38,062円  
(4)会議費 18,585円  
(5)慶弔費 16,065円  
(6)次年度繰越金 2,019,911円  
合 計 3,360,372円

以上 事務局長 森下 剛 作成  
上記に相違無きことを認める。会計監事 遠山 衛

### 1998年度 事業報告

|        |                                                      |
|--------|------------------------------------------------------|
| 5月14日  | 第1回 役員会12名<br>1997年度仮会計報告他                           |
| 7月22日  | 第2回 役員会9名<br>大学120周年記念寄付<br>リパティタワー見学会<br>親睦会ゴルフコンペ他 |
| 9月30日  | 第3回 役員会12名                                           |
| 11月7日  | 親睦会開催<br>第2回ゴルフコンペ                                   |
| 11月20日 | 見学会開催<br>駿河台リパティタワー                                  |
| 12月16日 | 第4回 役員会8名                                            |
| 2月17日  | 第5回 役員会9名<br>次期役員人事検討他                               |

## 次期理事候補者(案)について

前清水会長より引き継ぎました役員理事も6月で任期改選の時期となります。大変ご苦勞様でした。

次期新年度(平成11年度)の水曜会運営を推進していただく役員理事候補者(案)を4月の理事会にて推薦致しました。

水曜会のますますの発展を目指し、よろしくお願い申し上げます。

任期：1999年4月～2001年3月

| 役職    | 氏名      | 勤務先         | 卒業年  | 研究室 |
|-------|---------|-------------|------|-----|
| 名誉会長  | 松 尾 陽   | 明治大学        |      |     |
| 顧問    | 坂 上 恭 助 | 明治大学        | 1974 | 篠原  |
|       | 加治屋亮一   | 明治大学        |      |     |
|       | 北 島 敬 造 | エース設計事務所    | 1956 | 篠原  |
|       | 佐 藤 善 昭 | 横河建築設計事務所   | 1957 | 篠原  |
|       | 清 水 正 巳 | エース設計事務所    | 1961 | 篠原  |
| 会 長   | 富 田 隆 造 | 石本建築事務所     | 1966 | 篠原  |
| 副 会 長 | 平 川 清   | ピーエーシー      | 1966 | 篠原  |
|       | 須 藤 俊 彦 | 新菱冷熱工業      | 1975 | 貝塚  |
| 理 事   | 宮 沢 宏 次 | 森村設計        | 1963 | 篠原  |
|       | 中山志メ松   | 日本設計        | 1965 | 篠原  |
|       | 高 木 延 浩 |             | 1967 | 篠原  |
|       | 嘉 治 憲 夫 | 鹿島建設        | 1971 | 篠原  |
|       | 吉 本 隆   | 横河建築設計事務所   | 1975 | 篠原  |
|       | 遠 山 衛   | ピーエーシー      | 1976 | 篠原  |
|       | 尾 崎 幸 平 | 建雄社         | 1977 | 貝塚  |
|       | 平 松 哲 也 | 久米設計        | 1979 | 貝塚  |
|       | 吉 田 孝 之 | 野村不動産       | 1983 | 坂上  |
|       | 上 藤 英 昭 | 須賀工業        | 1984 | 篠原  |
|       | 中 谷 豊   | I.N.A新建築研究所 | 1992 | 貝塚  |
| 監 査 役 | 竹 田 佳 香 | 東京ガス        | 1996 | 加治屋 |
|       | 飯 田 朋 弘 | 鹿島建設        | 1961 | 篠原  |
| 事務局長  | 横 田 輝 正 | 横河建築設計事務所   | 1964 | 篠原  |
|       | 森 下 剛   | 明治大学        | 1982 | 坂上  |

## 委員会報告

### 会則改定委員会

平成9年の4月より取り組んでまいりました会則改定につきましては、8回の委員会と10回の役員会におけるチェックを経て、原案が完成いたしました。昭和48年に制定された現在の会則の基本理念を変えることなく、時代の変化などを考慮し、以下の内容などを中心に会則の抜本的見直しをおこないました。

今後は、歴代会長及び顧問のご意見をいただき6月24日の総会において皆様の御承認を得て施行となります。

◎事業年度の確定と、それに伴う総会の開催時期の決定と、総会成立条件の明記。

◎理事会を会議体の中心にすることと、監査役の役割の明確化。

◎細則の設置による、会費・入会金および部会などの明記。

◎各部会の設置と、その目的および活動内容と、運用基準などの決定。

### 会報発行委員会

1998年1月に会報・創刊号を発行し、会員に郵送しました。また本第2号を発行すべく内容の検討・原稿依頼・編集を行いました。

◎原稿・会報タイトル大募集◎

原稿の主題については全くの自由です。また心沸き立つ素敵なタイトルデザインを考えてみて下さい。今なら応募頂いた原稿及びタイトルは掲載されること確実です。このチャンスに是非！ 送り先は森下事務局長(明治大学管財部施設課)迄

◎ホームページアドレスの紹介◎

水曜会事務局は加治屋研究室内に置かれています。加治屋研究室のホームページは建築学科のホームページ経由で開くことができます。情報の連絡、原稿の応募等には是非ご利用下さい。

<http://www.isc.meiji.ac.jp/~arch>

### 研究会実行委員会 見学会の報告

昨年11月20日に会員参加者15名で明治大学リパティタワー(9月竣工)の見学会を開催致しました。日建設の御協力で設計者の中村様より詳細な御説明と御案内を載く事が出来ました。

23階の記念ホールより教室他の諸室を経て地下設備機械室に至るまで、2時間半の長時間の見学にも参加者の興味は尽きず多数の質疑で終始致しました。

また昭和31年卒の菊池氏より平成4年卒の小笠原氏まで巾広く世代を越えた交流を載け大変有意義であったと思います。

今回は大学の都合で参加人数を限定し皆様に御迷惑をかけましたが、次回は9月22日午後に東京ガス環境エネルギー館を予定しております。是非御遠慮なく多数の御参加を、お願い致します。

最近自分の年を数えるのも面倒になってきて、現在自分が63歳なのか64歳なのかよく分からないのですが、何しろ明治大学にお世話になって生田校舎に通うようになってから、はや3回卒業生を送り出した記憶がありますから、今年は4年目ということになるようです。

こちらへ参った当初、若くして急逝された貝塚先生のときのままになっていた穴蔵然とした研究室を少し整理しかけた頃に、会長さんの訪問を受け、いきなり各誉会長にというお話を頂戴して大いにびっくりしました。もっとも、そのまた1年くらい以前に一度だけ講演会の講師に招かれて、おしゃべりをしたことがあった（渋谷の東急会館だったかな？）ので、会の存在自体は承知しておりました。お話をうかがってみると、環境系の教員の最年長者だからならなければいけないということで、年寄りの務めとあればまあ仕方ないかと思って受けさせていただきました。どういう人たちがメンバーなのか知らないで、就任あいさつのために総会に出席してみたら、仕事の関係で親しくさせていただいている人、面識のある人が沢山会場におられたので安心すると同時に、明治

早いもので、我が明治大学工学部も創立55年を数え、そして水曜会も今や富田会長を中心に800余名の組織となっております。本会会報の創刊号において北島先輩が水曜会の生い立ちについて述べておられましたが、同時代に明大に学んだ私にとって振り返り思い出されることは、今は無き聖橋校舎であり、故篠原隆政先生の若き助教授時代のことであります。

私が明大に学んだ1953年頃は朝鮮戦争の特需景気も一段落し、大学受験ブームの第一期とも云うべき時代であり、工学部校舎もまだ生田移転計画のまとまる以前の段階で、狭隘な聖橋校舎でした。入口から10数段の

## 4年目の雑感



松尾 陽

理工学部建築学科教授

大学の卒業生がこの業界でずいぶん幅広く活躍しておられることを改めて認識した次第です。

話は変わりますが、生田キャンパスというところは、都心からの距離の割に、周辺に残されている緑の量も多く、あのハードな坂登りも老化防止に好適であり、トイレで用を足しながら多摩川越しに新宿副都心方面を眺める眺望も抜群で、とてもよいところだと思っています。特に正門から入った一本道の左側にある雑然とした庭が気に入っています。ひどく念入りに刈り込んだ枝振りのよい拓植の木のそばに雑草ぼうぼうの荒れ果てた一画があったり、その奥には何も文字の彫っていない石碑がいくつありげに立っていたり、

無秩序なようであり、梅、桜、萩、すすき、山茶花などなど、季節季節の花木がこれほど多種多様に植え込まれている場所はめったにあるものでなく、見飽きることがありません。今はどうだんつつじの白い花があちこちで咲いています。大学へ出てくると、まずこの庭に置いてあるベンチに腰をおろして、タバコを1本くゆらしてからやおら研究室へむかうのが、近頃の私の日課になっています。

ところで、20世紀もとうとうどんづまりまで来てしまいました。この先はいったいどうなるのでしょうか。大学にいと世間の風はあまり当たらないのでこれまで呑気にしていました。が、今年はリクルートの関係が

ひどく窮屈で去年までとは様子が違います。いったいこの不景気はあと何年で抜け出せるのか、経済も成熟、人口も増えず、社会全体が高齢化するという中で、建設業が衰退コースにはまり込むことなく、それなりの繁栄を保てるのかなどなど、どうも気の重くなるようなことばかりです。

最近をよくも悪くも環境ばやりで、私も環境アセスメントの整備とか、CO2排出削減方策の立案とか行政方面のお手伝いをさせられるのですが、官も民も事態は深刻になる一方で、確とした解決の道筋はまだ見えてこないようです。いずれにせよこれまでのような環境マインドに欠けた建築のありかたが今後許されなくなることは確かで、どうも21世紀初頭は建築界全体を巻き込んだ「環境デザイン」の時代になりそうです。そうだとすると、問題の大半は設備がらみなので、設備業界は大変ですが、同時に、建築の中での設備の存在感はどんどん増大して行くことになるでしょう。雌伏数十年ののちに、これからの十年がわれわれにとっての正念場になるのかもしれませんが。会員各位の奮闘を期待しております。

## 聖橋校舎と篠原先生の思い出



佐藤 善昭

1957年卒 元水曜会会長

階段を登るとメインフロアで中央の吹抜けを囲む開放廊下と、教室、ゼミ室の配置された4階建が全てという状況でした。し

かし教授陣は、日本建築史の堀口先生、西洋建築史の神代先生、建築計画の浦先生、徳永先生、構造の小倉先生そして環境系で

は計画原論の渡辺先生、建築設備の篠原先生と、いま思い出しても蒼々たる先生の集りでした。

授業風景として特に思い出されるのは堀口先生で、厳しい中にもおだやかな話し振りで、桂離宮の庭園の講義など実に楽しそうにお話しになり、我々学生はその話の中に引込まれて行ったものでした。また聖橋時代の建築学科は創立からの気風である設計製図に重点をおいた教育方針で、2年次から始まる建築設計I II IIIは必須科目であり、年4回、課題が与えられ、提出した作品は4階の大製図室に張り出され、意匠系の全ての先生がそれらに目を通し厳しい指導と採点がありました。また一時

限目に課題を与えられ夕方に提出する『即日設計』など今となつてはなつかしい思い出です。そんななかで篠原先生は建築設備担当でありながらご自分のゼミの中で設計製図に落ちこぼれそうな学生がいたら、早く出来た学生を集めて手伝わせたり、まずいところを指摘したり今では考えられない先生と学生の間柄でした。今考えれば当時の篠原先生は30代半ばの若さで、新しい明大工学部でせいっぱい頑張っておられたのが窺えます。

ます。

そのような建築学科でしたから卒業設計には特に厳しく半年近くかけて取り組みましたが半数近くが不合格となり留年となつて9月送りとなる有りさまでした。幸い私達設備ゼミ生は篠原先生の応援・ご指導のもと全員が無事合格でした。私の卒業した1957年を境に数年続く不況も脱し、暮しも安定し、時の総理大臣の「もはや戦後ではない」との言葉が大流行し、明大も私学助成に基づき駿河台6・7

号館、駿河台図書館、和泉校舎体育館など相次ぐ建設ラッシュとなりました。それらの設計は当時は自校の先生が基本から実施まで携わるのが当たり前で、全体計画は堀口先生、設備設計は篠原先生が担当されて我々社会人・二年生は招集をかけられ先輩の北島助手の指導のもとに、ついこの間まで学んでいた教室でゼミの学生と一緒に毎晩おそくまで図面を描き最後には——いつの時代も同じことですが——徹夜の状態となり、そ

こから会社に通う日が続きました。

聖橋校舎での四年間は私の学生生活の中で最も楽しい思い出の時代でありました。現在の教育施設の整った生田キャンパスとは比較にならない環境ではありましたが、我々「聖橋」は狭いなりにそれだけ先生と学生との距離が近く、より密接な付き合いが出来、より暖かな学生生活が送れたと、いま振り返っている次第です。

最近の日本の常識が、世界に通用しなくなってきましたが、ここ東南アジアでの「処変れば品変る」実例を上げ、何故違うのか？を探ってみましょう。

さて、日本では極く当り前に使用している洋風便器（以下、洋便）があります。和風便器に比べ姿勢が楽ですし、防臭の点でも優れています。現在では洗浄機能も組み込まれ、究めて快適、且つ衛生的です。嘗ての海外旅行で、洋便の使い方が便座の上に足を掛けてしゃがみ、用を足したと云う実話は、もはや昔の笑い話ですが、東南アジアではこの方法が横行しています。直に素肌が触れる部分に、土足で乗るのですから不潔窮まりなく傍迷惑です。公共トイレは仕方が無いにしても、会社の便所でもそんな不埒な輩が居るのです。シンガポールなども多民族国家ですが、その内のマレー人がこの方法なのです。シンガポールでは、運転手にマレー人社員が多く、学歴（小学校卒）が低い故に正しい使い方を知らないのだろう（失礼）と思いました。が、これは誤解で、彼等の宗教に絡む理由でした。回教徒は用を足した後、紙を用いず水でお尻を洗浄します。故に、左手は不浄の手と言われる由縁ですね。その時、洋便に座しているとお尻が洗えないのです。中腰でお尻を上げて洗うと、足元に水が垂れてきます。彼等にとって、洋便は不都合な格好だっ



## 処変れば… 東南アジアの 設備事情など



石川 照芳  
1977年 篠原研卒

たのです。お尻を落としてしゃがみ込むスタイルは、アジア式便器（和式に金隠しが無い形）が一番良く、洋便では馬蹄形の便座に上る方法以外なかったのです。何にせよ、外で催した際は洋便を避け、接触の無いアジア式で用を足しています。多分、女性の場合も同じなのでしょうね。しかし当地の女性にこんな事を聞かせませんから、疑問が残ります…。兎に角、回教国へ行

かれる際にはこの点に御留意を！

次に、雨水桝に泥溜りを150ミリ設けるのは、泥の流入、堆積で管路が閉塞しない為です。しかし、シンガポールでは、雨水桝も汚水桝と同じにインバート（水路）を作ります。当初、発展途上の国々は、本来の主旨を理解せずに模倣しているのだと考えました。が、実は立派な理由があったのです。これは熱

帯地方なるが故で、蚊を媒体とした伝染病（マラリヤやデング熱）対策でした。蚊は水溜りで簡単に繁殖しますが、この状況を駆逐する為でした。シンガポールでは、工事現場は勿論、住宅の植木鉢すら検査対象となり、ボウフラが発見されれば罰金が科せられます。つまり、蚊対策優先で泥溜りを無くしたのです。では、管路に流入した泥は、どうなるのでしょうか？ バケツをひっくり返したような半端ではないこちらの豪雨が、全て(?)押し流してしまうようです。

最後は、土中埋設ケーブルです。日本は直埋設に消極的で、架空配線が殆どです。何故なら、直埋設は拡張性に乏しく、また掘削工事での損傷の危険も高いので、共同溝やケーブルトレンチ内に敷設します。しかし、当地では、ケーブルの直埋設が普通です。これについて、現地の関係者に尋ねました。答えは、「ここ熱帯地方では、毒虫（百足、蠍や蜘蛛など）や毒蛇（コブラ）、また、子豚など一飲みしてしまう大蛇すら生息しています。そんな環境の元、ケーブルを敷設する際、危険を承知で一体誰が共同溝の中に入りたがりますか？」「ウーン、納得！」

これらにもこんな理由があったのです。考えれば『なるほど！』と納得出来ますが、文化や環境の背景を充分に理解しないと、仲々判らない話題でした。

## 建築環境工学 研究室

教授 松尾 陽

|     |       |        |
|-----|-------|--------|
| M・2 | 村田 泰孝 | 中野 良太  |
| ゼミ生 | 古元 明  | 神原 祥司  |
|     | 榊本 昇吾 | 日高 基比古 |
|     | 高田 昌史 | 西 耕太郎  |
|     | 城川 禎  | 坂本 一成  |
|     | 原 洋平  | 古矢 薫   |

### 卒業論文テーマ

#### 1. 市街地気候の研究 その1

市街地の建築物の高密度化・高層化とともに、都心部の気温が急激に上昇し、湿度が低下するなどの影響が現われている。東京地域では都心から郊外にかけて10数地点でアメダス気象観測が行われているので、このデータを入力して分析し、その実態と特徴を明らかにする。

#### 2. 室内気流の数値解析

当研究室と加治屋研究室が長年行っている研究テーマで、空気流動の基礎方程式を、スーパー・コンなどを使って解析する。

#### 3. 住宅の環境性能の実測と分析

実物の住宅を対象として、断熱、換気等の性能の実態を測定で把握し分析する。(鹿島建設技術研究所共同研究)

#### 4. 土地被覆状態の都市気候への影響に関する研究

シミュレーションによって土地被覆状態が都市気候へ与える影響を解析する。

#### 5. リバティータワーの環境調査(日建設計)

リバティータワーの省エネルギー設備について実態の調査を行う。(日建設計共同研究)

#### 6. 窓の形と日射量の関係

窓から入ってくる日射量はパッシブソーラーハウスの熱源になるし(冬)、冷暖房負荷の原因にもなっている。この熱量の現在の計算方法は相当荒っぽいものなので、建築の窓周りの詳細と日射熱取得について、もう少し精密に解析する方法を研究する。



## 建築設備研究室

教授 坂上恭助

本研究室では、人の生存や活動にとって必要不可欠な水をどう供給し、いかに処理して自然に帰すべきかを主題に、地域・都市の水利用環境から建物内の給排水衛生設備まで、水関連問題を幅広く取り上げてきた。そのなかでは、さまざまな実態調査、設備システムの設計法、配管・機器等の流体現象の解析、人の行為・生理、設備の歴史、アジア諸国の水環境・給排水衛生設備の現状分析などを継続して検討してきた。

1999年度の研究室構成は、大学院生(修士)が4名(M1:2名、M2:2名)、ゼミ生が5名であり、少数精鋭で邁進するつもりである。卒論テーマとM1の修論テーマはまだ未定であるが、次のなかから選定することになる。



#### ①アジア諸国の住環境・水使用状況：

東・東南・南アジア諸国の諸都市における水使用の実態・習慣・文化等と住生活を調べ、日本と比較検討する。

#### ②中国の建築給排水設備設計法：中国の建築給排水設備の設計法について、現行の体系を調べ、その特徴を明らかにするとともに、改良すべき事項を挙げる。

#### ③駅舎トイレの適正配置と適正器具数の算定法：JR駅舎のトイレ利用の実態調査を基に、トイレの配置と器具種類・個数を適正に算定する方法を開発する。

#### ④給水温の予測手法：河川源流から取水口、浄水場、配水管、建物内受水槽に至るまでの一連の水温を予測する手法を確立させる。

#### ⑤給水システムにおける逆流防止法：増圧直結給水方式を含めた各種給水方式における配管・機器・器具等の

適当な逆流防止法を提案する。

#### ⑥排水管内圧力の予測手法：これまでの予測手法を、特殊継手排水システム(単管式排水システム)にまで拡張する。

#### ⑦戸建て住宅排水システムの性能：2・3階建ての住宅を対象に、その排水システムに生じたトラブル例を参照にし、実験により排水性能を検討する。

#### ⑧トラップの封水強度試験法：試験装置を改良するとともに、各種トラップの封水変動特性・封水強度を調べる。

#### ⑨給排水設備のリノベーション：設備診断法(耐震診断を含む)を含めて、給排水設備の改修方法を検討する。

## 建築環境デザイン 研究室

専任講師 加治屋亮一

|     |      |       |
|-----|------|-------|
| M 2 | 中村好孝 |       |
| M 1 | 鳥海達郎 |       |
| ゼミ生 | 名畑 淳 | 山口 高史 |
|     | 平川智己 | 乾 祐介  |
|     | 浅原祐介 | 浦富 慎二 |
|     | 河野剛志 | 岡本 佳之 |
|     | 田中 葵 | 久保隆太郎 |
|     | 田中 薫 | 横内 重樹 |

### 1998年度卒業論文テーマ

#### 1. ノズル吹出口を用いた気流性状に関する研究

当研究室が長年行ってきた継続研究で、ノズル吹出口による強制対流場を対象とした模型実験および数値解析を行った。

#### 2. 壁面および床面放射暖房室内の温度・気流性状に関する研究

室内模型を用いた放射暖房室内における温度分布の測定と可視化および数値解析を行った。

#### 3. 建築設備デザインにおける評価方法に関する研究

昨年度より始まった研究で、設備デザイン・システム開発委員会によって進められてきた研究を手がかりに、設備デザインの存在価値を見出す方法論を検討した。

#### 4. 新菱冷熱工業株式会社との共同研究

昨年度は、室内反射・再透過を考慮した日射量分布に関する研究、LESによる周期定常噴流の数値解析・流入条件、格子分割への検討を行った。

## 会費および寄付金 納入のお願い

1997年度分の会費は、162名の会員・会友から納入していただきました。ありがとうございます。本年度も会費納入に、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

なお、今回は明治大学120周年記念寄付金(3000円)もあわせてお振込いただけるように、5000円と2000円(年会費のみ)の郵便振込用紙を2種類同封しております。振込手数料はどちらも無料です。6月中にお振込みいただければ幸いに存じます。

また、誠にお手数ですが振込用紙の通信欄に卒業年月、研究室名を必ずご記入下さい。住所等の変更などもご記入願います。

### ◆年会費

会員・会友 2000円

学生会員 1000円

### ◆振込先

口座番号 00190-0-413602

加入者名 明治大学水曜会

◆問合せ 事務局長 森下 剛

親睦会  
実行委員会

## 第2回水曜会ゴルフコンペ開催

昨年11月7日(土曜日)、埼玉県の武蔵カントリー倶楽部笹井コースで、23名(6組)の参加者で、水曜会のゴルフコンペを行いました。

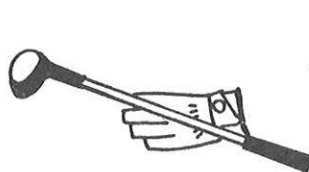
今回は加治屋先生にも参加頂き、また昨年度も参加された方も多く、あいにくの曇り空でしたが、楽しい1日を過ごしました。

名門コースだけにかなり難しいコースでしたが、レベルの高い?成績でした。

優勝 常田俊夫(S36ミズズ建設) 準優勝 平川清(S41ピーエーシー)

3位 茂木晃(S36 協和建設工業) ベスグロ 常田俊夫 グロス86(44、42)

来年度も開催を予定しておりますので、多数の参加を希望しています。尚、次回幹事は常田俊夫(優勝)、静野英雄(B、B)両方をお願いしております。



1999年度

## 総会・講演会・懇親会 開催のお知らせ

前回の総会は1998年1月に行いましたが、本年度以降は毎年6月に開催する予定です。

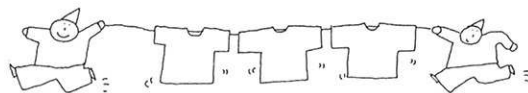
これは、事業計画及び会則の抜本的な見直し作業によって最適な時期と思われるからです。

駿河台校舎には大学創立120周年記念館「リバティータワー」が、昨年9月に竣工しました。懇親会のあと23階岸本辰雄記念ホールで地上120mの眺望を楽しんでから懐かしい仲

間達で同期会などはいかがでしょうか。

皆様、お誘い合わせ

のうえ、ふるってご参加下さいませようご案内申し上げます。



### 記

#### ◆日時

1999年6月24日(木)

#### ◎講演会

午後5時30分～6時10分  
高地先生に御講演をいただきます。

#### ◎総会・懇親会

午後6時20分～8時

#### ◆場所

大学会館 8階 大会議室  
所在地 千代田区神田駿河台  
1の1リバティータワー北隣

受付: 午後5時～

#### ◆会費(懇親会)

会員・会友 7000円

学生会員 2000円

#### ◆問合せ

事務局長 森下 剛  
明治大学施設課 ☎3296-4516

総会・講演会・懇親会の出欠につきましては、同封のがきにてご連絡ください。

## 講演会のお知らせ

6月24日に高地先生(S38年卒)に講演をお願いしました。講演題目は「水需給の現状とその方策」で内容は下記の通りです。ふるって御参加下さい。

近年、生活水準の向上や生活様式の多様化等により、生活用水の需要が増加の傾向にあります。この現状と水資源を有効に利用するための合理的な使用のための方策について、及びその現況について述べて載くものです。

